

**授業概要**

行動や感情は中枢神経系の活動により引き起こされる。生理心理学は、生理学的手法を用いて脳と行動の関係を調べ、人間の「心」やそのメカニズムを明らかにしようとする学問である。本講義では神経活動の基本から始め、身体機能の生理学的基礎をふまえながら、知覚・学習と記憶・感情・ストレスなどをとりあげ、これらがどのような神経メカニズムにより成立しているのかを解説する。また生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用について学ぶことで、心を生み出す脳の仕組みについて理解を深める。

**授業計画**

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション・神経生理心理学とは？       |
| 第2回  | 脳の構造①：中枢神経系の構造と機能          |
| 第3回  | 脳の構造②：末梢神経系の構造と機能          |
| 第4回  | 脳と知覚①：視覚・聴覚                |
| 第5回  | 脳と知覚②：嗅覚・味覚・体性感覚           |
| 第6回  | 脳と記憶：記憶の不思議                |
| 第7回  | 学習と行動                      |
| 第8回  | 情動                         |
| 第9回  | 意欲・動機づけと行動                 |
| 第10回 | ストレスの生理心理学的メカニズム           |
| 第11回 | 精神障害のバイオサイコロジー①：統合失調症，気分障害 |
| 第12回 | 精神障害のバイオサイコロジー②：不安障害，精神薬理学 |
| 第13回 | 高次脳機能障害①：失語，失行，失認          |
| 第14回 | 高次脳機能障害②：記憶障害，注意障害，遂行機能障害  |
| 第15回 | 生理心理学まとめ：脳と心               |
| 第16回 | 定期試験                       |

**到達目標**

- ①脳・神経系の基本構造や機能について知識を習得し、こころがどのような神経活動によって成立するかを理解する。
- ②ストレスや精神疾患，高次脳機能障害の神経生理心理学的基礎についての理解を深める。

**履修上の注意**

- ・本講義受講にあたっては、「心理学概論Ⅰ」ならびに「心理学概論Ⅱ」を受講済みであること。
- ・大幅な遅刻・早退、その他受講態度に問題がある者は出席とみなさず、退室を求める。（講義開始直後に配布する小レポート用紙を受け取り、これを講義終了時に提出すること。）
- ・本講義に関連して、心理学に関する調査や実験の協力を依頼する可能性がある。
- ・その他の注意事項について初回の授業時に伝えるため、初回授業には必ず出席すること。

**予習復習**

- 【予習】受講済みである他の心理学関連の講義の内容を振り返っておくこと。
- 【復習】授業で紹介した資料や書籍を読み、理解を深めること。

**評価方法**

講義各回で提出を求める小レポート(約 30%)と期末試験(約 70%)に基づいて評価を行う。  
 ※小レポートと定期試験の成績にかかわらず、出席回数が3分の2を満たない者の単位認定は行わない。

**テキスト**

- ・特にテキストは指定しない。